

HP 版

氏名の公表についてご本人の意思を尊重しているため、作品に氏名が記載されていない場合があります。



令和5年度 八幡平市教育振興運動推進協議会

三行詩 入賞作品集

三行詩の取り組みは、子どもたちの素敵な姿、親子の日常の会話、心がほっこりする出来事を思ったまま感じたままに三行程度の短文に書き表す営みです。たったそれだけの行為ですが、そのことによって、今まで何気なく見ていた光景がとても素敵なものを感じられます。

子どもの目、親の目、祖父母の目、地域の目など、いろいろな視線から毎日の生活を見つめ、気づいたことを親子で話し合ったり、地域の中で話すきっかけに
なったり、市全体が素敵な話題で盛り上がることを期待した
取り組みです。



あいさつ

八幡平市教育振興運動推進協議会長

伊藤 喜代美

新型コロナウイルス感染症が昨年五月に五類に移行しました。これに伴い、これまでに課されてきた制限等が大幅に解除になりました。

教育振興運動の実践は集団活動が中心ですので、この三年間、自粛を余儀なくされてきた活動が多数ありました。各実践区の集約集会などに参加しても、計画したが中止したという実践班の報告が多く、思うように活動が出来なかった様子が感じられました。それに伴い、三行詩も家族の絆など身近な人との関わりを詠ったものが多かったように思います。

しかし、今年は違います。ようやくですが、実践区の活動が戻ってきました。各実践区とも、計画した活動がほぼほぼ予定通り実施できていたようです。三行詩の内容も、昨年度とは大きく異なりました。家庭内にとどまらず、広く外に向かう詩が多かったように思います。そして、なにより、応募作品全体から明るさが感じられました。

今年度の応募点数は一一〇三点。ついに一〇〇〇点の万台を超えました。活動が前向きになったことの現れとも思います。また、コミセンを通して一〇点の応募がありました。教振の活動はまだまだ学校に頼りがちの面がありますが、普段学校とあまり接点のない地域の皆さんが少しでも教振の活動に目を向けていただければと思います。登校すれば学校が子どもたちを責任をもって教育し、地域にいるときは地域全体で子どもたちを見守る。そして、どちらにも五者がしっかりと関わりを持つ。そうになったらいいなと思います。

今年度の協議会長賞は、安代実践区八幡芽依さんの作品としました。「ママだいすき」の時期は、一般的には小学校低学年までといえます。多くの子どもたちが、小学校中学年には「ママだいすき」の時期を卒業するようです。表面的にはお母さんべったりの行動はとらなくても心の中ではまだまだお母さんを求めている。成長の過程の一場面を見せてもらったように思います。

次年度も多くの皆様の応募をお待ちしています。ありがとうございます。



令和五年度「三行詩」入賞者

一 協議会長賞

安代実践区(田山小学校) 一年 八幡 芽依

小学校高学年部門

平笠実践区(平笠小学校) 四年 高橋 莉瑚

田頭実践区(田頭小学校) 五年 中居 理功

大更実践区(大更小学校) 六年 伊藤 陽貴

二 金賞 (各部門 一点)

安代実践区(安代小学校) 二年 藤川 蒼介

中学校部門

松野実践区(松野小学校) 五年 本堂 幹大

松尾中学校 一年 佐々木 心奏

西根第一中学校 二年 畠山 あゆ

西根中学校 一年 渡邊 希未

平館高等学校 三年 畠山 瞳

安代中学校 二年 村上 愛美

寄木地区 渡部 京子

高等学校部門

平館高等学校 一年 遠藤 梨音

三 銀賞 (各部門 三点)

小学校低学年部門

大更実践区(大更小学校) 一年 日戸 陽央弥

平笠実践区(平笠小学校) 二年 吉田 璃豊

安代実践区(安代小学校) 三年 関 陽心

市民部門

平館高等学校 三年 佐々木 茉彩

平笠実践区 今村 宗弘

田頭実践区

平笠実践区 高橋 瑞紀

四 銅賞（各部門五点以内）

小学校低学年部門

安代実践区(安代小学校) 二年 阿部 文汰

田頭実践区(田頭小学校) 二年 佐藤 陽夏

大更実践区(大更小学校) 三年 日戸 寛央喜

平館実践区(平館小学校) 三年 伊藤 陽大

松野実践区(松野小学校) 三年 立柳 琉生

小学校高学年部門

大更実践区(大更小学校) 四年 工藤 依子

寄木実践区(寄木小学校) 四年 伊藤 遥愛

松野実践区(松野小学校) 四年 遠藤 楓歩

平館実践区(平館小学校) 五年 伊藤 涉叶

松野実践区(松野小学校) 六年 古川 力一斗

中学校部門

西根中学校 一年 工藤 美歩

安代中学校 二年 畠山 結衣

西根中学校 二年 工藤 瑚乃香

安代中学校

安代中学校

高校部門

平館高等学校

平館高等学校

平館高等学校

平館高等学校

平館高等学校

市民部門

田頭実践区

平笠実践区

田頭実践区

平笠実践区

大更実践区

二年 小山田 凜音

三年 川又 倫

二年 高橋 優太

二年 三浦 翔琉

吉田 和志

鈴木 隆生

吉田 華奈

工藤 壮矢

）
入賞作品紹介
）



協議会長賞

安代実践区（田山小学校）

一年 八幡 芽依

またきょうもしかられた

でもこころのなかでいっているよ

「ごめんなさい」

どんなにおこられてもおもってるよ

「ママ だいすき」



金賞

安代実践区（安代小学校）

二年 藤川 蒼介

一人でゲームするより

かぞくでおしゃべり

ぼくのハート レベルアップ

松野実践区(松野小学校)

五年 本堂 幹大

ぼくの頭はつるつる坊主

だけど三日坊主は卒業したい

早おきするぞつづけるぞ



西根第一中学校

二年 畠山 あゆ

黄金色に輝く稲

風に吹かれて

楽しそうに笑ってる

私はこの風景が

大好きだ



平舘高等学校

三年 畠山 瞳

いろいろな形のやさしさ

とんがりだったり 丸かったり

個性いっぱい

育てていこう 自分のかたち



寄木実践区

渡部 京子

いつもの朝の散歩道

迎えてくれるのは

あぜ道の小さな花

ふるさとの大きな山

元気な登校中の子どもたち



銀賞

大更実践区(大更小学校)

一年 日戸 陽央弥

きえないでほしいなあ

よぞらにさいた おおきなはな

ぼくは てをいっばいにひろげて

ジャンプした



平笠実践区(平笠小学校)

二年 吉田 璃豊

ぼくにおとうとができた

およげるようになった

はじめてできたが いっばいの夏

安代実践区(安代小学校)

三年 関 陽心

帰りの車のお楽しみ

学校の事をお母さんに話す時間

えがおになれるまほうのおしゃべりタイム

平笠実践区(平笠小学校)

四年 高橋 莉瑚

おはようと声をかけてくれるおじさん
車の中から手をふってくれる

友達のお父さんやお母さん

だからさびしくないもん

一人で歩く通学路 いつもありがとう

田頭実践区(田頭小学校)

五年 中居 理功

待ってたぜ3年ぶり

夏休みといえばやっぱりプール

みんなでワイワイキャツキャ

友達と自由に遊べるうれしさ

何も気にせず遊べる楽しさ

ぼくはこれを ずっと待っていた



大更実践区(大更小学校)

六年 伊藤 陽貴

マスクはずし

友達の笑顔みれて

うれしいな

松尾中学校

一年 佐々木 心奏

サルスベリ

「こんなに暑い夏が好きなのですか」

いま、花盛り

ごみ拾い

きれいな町への第一歩

それがわたしのできる SDG s

西根中学校

1年 渡邊 希未



安代中学校

二年 村上 愛美

会うとおかしをくれる近所のおじちゃん

おかしもうれしいけど

一番うれしいのは

楽しそうに話を聞いてくれるこの時間



平館高等学校

一年 遠藤 梨音

高校生になった私

大人らしく頑張らなきゃと気を張る

大人になるにつれて家族と過ごせる時間

タイムリミットがどんどん迫ってくる

そう考えるとさびしくなる

ばあばの部屋に泊まったり 家族に甘える

高校生になった私はまだまだ子供

平館高等学校

下を見て自分の高さに安心せず

上を見て自分の低さを思い知る

その場にとどまらず

上を向いて進もう



平館高等学校

久しぶりに歩く道

大きくなった駅と病院

小さくなった田んぼと私

懐かしい匂いと不思議な感覚

未来永劫ここが私の故郷

さあこれからどう変えようか



三年 佐々木 茉彩

平笠実践区 今村 宗弘

口開けて

寝てる娘を助手席に

駅へ学校へ 行ったり来たり

田頭実践区

ありがたい

学校給食

神レベル

平笠実践区 高橋 瑞紀

ここにもかあ

壁いっぱい落書きが

突如現れる 我が家のバンクシー



銅賞

安代実践区(安代小学校)

二年 阿部 文汰

学校が休みの日

雨がふると

お父さんとお母さんはしごとは休み

ぼくたちとたくさんあそんでくれる

雨よ たくさんふれ!



田頭実践区(田頭小学校)

二年 佐藤 陽夏

「きょうもあつくてねむれない」

そういうわたしをあおいでくれるおかあさん

するとすぐねちゃう

まほうのうちわかな?

大更実践区(大更小学校)

三年 日戸 寛央喜

小さなもみじみたいな手

僕のせなかをぎゅっとだきしめる

一才だけど強い力

平舘実践区(平舘小学校)

三年 伊藤 陽大

いつもおそく帰ってくるお父さん

「うん うん」だけじゃなくて

もっとたまにはぼくとお話して

松野実践区(松野小学校)

三年 立柳 琉生

今年もきゅうりにのって

おじいちゃんが帰ってくるよ

早くおじいちゃんに会いたいから

ぼくがきゅうりの馬を作ったよ

大更実践区(大更小学校)

四年 工藤 依子

たんじょう日

一番ほしいプレゼントは

一分のハグ

寄木実践区(寄木小学校)

四年 伊藤 遥愛

「おはよう」と

毎日見守ってくれる

地いきのおじいさんおばあさん

「ありがとう」 私からの感しゃじょう



松野実践区（松野小学校）

四年 遠藤 楓歩

いやな事あっても

家族と話せば

気持ちのじゅう電100パーセント

平館実践区（平館小学校）

五年 伊藤 渉叶

「忘れ物なあーい」と話すお母さん

僕たちいつも「あっ！」でとまる言葉

本当はありがとうっていいいたいんだよ

松野実践区（松野小学校）

六年 古川 力一斗

やさしいぼくのお母さん

つらい時にもはげましてくれる

そんなぼくのお母さんは

ぼくにとって世界一



西根中学校 一年 工藤 美歩

先手必勝

明るいいいさつ 凡事徹底 毎日の努力

目指せ かつこいい先輩

安代中学校 二年 畠山 結衣

いい笑顔は伝染する

いい笑顔でいたら みんなが笑顔になる

いい笑顔は笑顔の種をたつくさんまいていく

そしたらどんどん 笑顔の花が咲いていく

安代中学校 二年 小山田 凜音

せみの音を聞いて歩いていけば

草の青いかおりがする

空を見上げれば 雲一つない青空

今日の最高気温は何度になることか・・・

安代中学校 三年 川又 倫

太陽の視線を感じる

汗が止まらない

こっちを見ないで太陽！

西根中学校 二年 工藤 瑚乃香

さまざまな色で輝く花

私たちと同じで花にも個性がある

花も私たちも自分らしく輝こうよ



平館高校

ネットより

目を見て話せば

すぐ解決

平館高校

家族にはおはようはあたり前

行ってきますもあたり前

ただいまもあたり前 おやすみもあたり前

でもありがとうは言えそうなのに

照れくさくて言えないのは 何故だろう

平館高校

バイトして

親の苦勞を知った

高校生

平館高校 二年 高橋 優太

間違いを正してくれる母がいる

母のおかげで

正しくなれる



平館高校 二年 三浦 翔琉

スマホからいったん手を離す

いつも通りの帰り道

懐かしいと感じてしまう自分に驚く

田頭実践区

宿題 あさがお カブトムシ

毎日言ってる 疲れるわ

待ち遠しいな二学期が



平笠実践区 吉田 和志

(これ 知ってる?)

自信に満ちた息子の顔

たまにはしれーっと 無知で行く

田頭実践区 鈴木 隆生

陽射し強く

額の汗も気にせずに

テント張りする子供たち

コロナ禍を経て知る 成長の足跡

平笠実践区

吉田 華奈

「宿題やりなさい」

子供に言いつつ

思い出す 母の声

大更実践区

工藤 壮矢

おれがやる

なんでもおれおれ おれやりたい

オレオレさぎじゃないよ

自我の成長 イヤイヤ期



特別掲載作品

事務局では 1103 作品すべての入力作業を行いました。その過程で、選から漏れたものの特に印象に残った作品がありましたので紹介します。

田頭実践区 工藤 浩一さんの作品です。

(ユーチューブ+ゲーム) > (宿題+手伝い)

変わって欲しい不等号

審査のまとめ

一 応募状況

左表のとおり、1103作品が集まりました。目標の900を大幅に上回る応募数です。特に中学校の応募が大幅に増えました。各関係のみなさんに感謝します。

市民の応募者が増えることは依然として課題ですが、昨年度からコミセンを通じた応募や祖父母世代からの応募が見られるようになりました。また、「入賞作品巡回展」は二年目を迎えました。会場
のコミセンの表示には工夫が施され、好評でした。今後、市民参加

令和5年度（2023年度）		
応募状況		
部 門	応募点数	前年比
小学校低学年	230	+24
小学校高学年	300	+59
中学校	351	+152
高等学校	120	+38
市民（一般）	97	-1
合計	1103	+272

が増えていくことを期待しています。

二 審査方法

一次審査は協議会常任委員十五人が分担して行いました。部門ごとに三人の委員が協議し、入賞候補作品として十数点に絞り込みました。五部門合わせて五十七作品になりました。

二次審査は絞り込まれた作品の中から各賞を選定する作業です。審査委員は次の六人のみなさんです。

伊藤喜代美協議会会長（審査委員長）

【子ども代表】 平野心美さん（平館高二年）

【親代表】 小野寺千鶴さん（寺田小PTA会長）

【学校代表】 高橋眞喜子さん（安代中学校長）

【地域代表】 大森力男さん（荒屋地区振興協議会長）

【行政代表】 遠藤幸宏さん（教育総務課課長）

三 審査後の感想

- ・ 自分と異なった世代の感じ方に触れることができた。感じ方の違いに面白さを感じた。
- ・ のんびりとおしゃべりをするような時間を子ども達が望んでいるように感じた。三行詩が家族の在り方を考えるきっかけになればいい。
- ・ 一読しておもしろさを感じるような作品に出会うことができた。審査を通して、世代によって感じ方が似通っていると思った。
- ・ 多くの作品に触れ、新鮮な気持ちになった。小さな子どもたちが真剣に考えている印象を受けた。
- ・ 手ごたえのある作品が増え、共感できる作品が多かった。



発 行

八幡平市教育振興運動推進協議会
事務局

八幡平市教育委員会教育総務課

発行日

2024年（令和6年）1月29日